

# 愛泉会 セミナー

コロナウイルスの影響で、予定していた研修や視察の多くが中止となっています。そのかわりにオンライン研修会が主流となり、また事業所内での学習会にも力を入れました。

## 日中系・居住系事業所会議研修会

### 「適切?不適切?な支援をみんなで考える」

当法人ではサービス種別(日中系・居住系・短期入所・相談支援)ごとに、横のつながりと情報交換の場として、種別事業所会議を定期的に開催しております。

日中系・居住系事業所会議では、令和3年度の取り組みとして、主に非常勤職員の方を対象に研修会を行いました。エリア拠点ごとのグループワークをオンラインで全体共有し、研修内容も事前に撮影した動画を視聴して意見交換するという、コロナ禍の現状に合わせた新しい形式です。

動画は日頃の支援の一場面を切り取ったシナリオで、職員が支援員と利用者さんの役を演じ、不適切な支援も意図的に取り入れた形で作成しました。動画視聴後の意見交換では、企画側の意図以上に利用者さんの視点に立った声が多く寄せられました。まとめとして動画を振り返る中で、愛泉

会の職員として大切にしていた点、事業部長より参加いただいた皆さんへ具体的にお伝えいたしました。

事後アンケートでは、「何気なくかけている言葉や支援を客観的に振り返ることができた」「日頃、時間に追われ利用者さんのペースに合わせられていないことに気付かされた」「経験年数を重ねたがゆえに、気を付けなければと感じた」「支援に関する不安感が、少し軽くなった」「他のエリアの職員の方の意見を聞いたのが良かった」など、前向きに業務に活かしていこうという意見をいただきました。

今後の研修の在り方を検討する上で、実りの多い企画となりました。

[障害者支援施設向陽園 園長 吉田 一斉]



## 地域での生活を支える グループホームにおける地域生活

### 「事業所学習会」

愛泉会では、地域生活=グループホームへの移行を行ってきました。多様な支援を必要とする方が、家庭的な支援や小規模での生活を通して意思表示や選択の機会が増え、ご本人が気持ちよく生活しているケースがたくさん見られています。

利用者さんが希望する住まいを自由に選べたり気軽に引っ越ししたりするのは本来であれば当然の権利です。しかし、過去には隣家や地区への説明を求められ計画が頓挫した事例もあれば学びました。近年では開設も比較的スムーズになり、ご本人やご家族の希望に沿って入居していく流れを作れているようです。

各地域でグループホームを始めたことで、それ

ぞれ地域の方々から理解を得られています。近所の方から野菜や果物をいただいたり、茶話会などの地域交流の場になっていたり。各ホームで利用者さんと地域とを繋げ、利用者さんが地域住民のおひとりとして過ごせるようにしていきたいです。

家庭的な場としてのホームでは、利用者さんとの関わりが大切だと感じます。

「今から出かけた」「今日は暑かったからビール飲みたい」といった声をすぐ実現させて、より普通の家庭的な生活に近づけられた話がありました。計画的に外出するだけではなく、

行動障害の強い方などには多くの支援が必要になりますが、そうであっても「普通の希望」を叶えていく支援が求められています。いろいろな体験や経験を増やしたい、選択の機会や快不快の表現を大事に受け止めていきたいと思えます。

そして、利用者さんご本人の幸せな生活を提供できるように、ご希望を伺い、それを叶えられるスタッフ集団でありたいと願っています。

[グループホーム支援センター向陽園 山名 立一]

## 「実務研究発表」の取り組み

愛泉会では、毎年、事業所で実務研究に取り組んでおり、ちとせんぼでは、今年度の実務研究発表のテーマを「満足度調査」として取り組んでいます。

満足度調査の実施の目的として、①自分の気持ちをしっかり伝える事ができるよう、意志表出支援から、意思決定支援に繋げていくこと②事業所の活性化、③声なき声を聴くための、スタッフのスキルアップを目指すことを3つの柱として取り組んでいます。

当初は利用者の方、数名を対象として取り組みを

始めましたが、次回からは全員対象とし、聞き取り方の工夫や日々の活動の様子からの評価を行って行きたいと思っています。

また、ソーシャルワークの実践の視点として、事業所内だけの活動だけではなく、いかに地域との繋がりが、満足度を上げていくかの視点を持って取り組んでいければと思っています。

利用者さんよりいかに1日1日を楽しんで頂くか、1つひとつの活動場面を積み重ね、利用者の方々の声に真摯に向き合い、満足度調査から願いが叶う事業所作りを今後も行って行きたいと思えます。

[デイサポートちとせんぼ 中村 民子]

## 日々是好日

愛泉会で働いて..

愛泉会で働いている職員をリレー形式でつないでいき、日々感じている事、思っている事を語っていただきます。

居宅介護支援  
事業所心音

寺崎 友紀子



4月から居宅介護支援事業所心音でケアマネジャーとして働かせていただいています。

長く高齢者福祉の仕事をしてきて、福祉の仕事が大好きで高齢者福祉にとどまらず『いつかは障がい者福祉を』との思いがありました。障がいのある方の支援はほとんど経験がなく、毎日が新鮮で驚きとワクワクの日々です。

法人内サービスの見学や体験を通し、障がい福祉サービスはとて多様で、サービスを受ける側だけではなく働くことも福祉であることを知り福祉の概念が広がりました。高齢障がいそれぞれの福祉を楽しみながら、これまでの経験を活かし高齢者福祉と障がい者福祉をつなぐ役割が出来るよう、これからもチャレンジし続けていきたいと思います。

向陽園 支援員

田中 涼太



今年度より向陽園に入職させていただきました。三カ月が過ぎました。少しずつではありますが、業務も覚え環境にも慣れ始めることが出ています。

私が、障害のある方と初めてかかわらせていただいたのは、去年8月のさくらでの実習です。当時は、どのように声をかけたら良いのか、かかわりかた等ほとんどわからず傍観してしまっている時もありました。しかし、先輩職員の方から日々学びを得ながら利用者の方とかかわりをもっていく中で、とても楽しくやりがいのある仕事であると感じました。向陽園に入職した今、日々楽しく仕事をすることができています。私とのかかわりの中で利用者の方の笑顔が少しでも増えるようにかかわり、支援していきたいと思っています。

児童デイサービス  
月のひかり  
支援員

今井 優



今年4月に愛泉会に入職し、児童デイサービス月のひかりで支援員として働いて約4か月経ちます。

最初は初めてのことがばかりで毎日緊張していました。子ども達ともうまく関係を作れるかという不安もありましたが、今は徐々に慣れてきて、周りの職員の方は分からないことがあれば気軽に質問ができるような環境を作ってくださるため、疑問を自分の中に溜め込む癖がある私にとつてはとてありがたい環境だと感じています。

まだまだできていないことが沢山ありますが、自分のダメな所だけでなく、良い所にも目を向けながら少しずつでも成長していけたらと思っています。